



合同宿泊学習で学校間の交流と集団生活を体験する
交流学習が行われています
(荒川・轟木・大浦小学校合同による鯨山登山)



日山忠郎議員

教育行政

小規模小学校の交流学習は

体験学習の交流を積極的に取り入れる

質問 少子化に伴い、町内の小中学校十一校のうち五校は百人以下の小規模である。少人数指導に対する取り組みについて問う。

① 小学校低学年の三十人以上学級や複式学級による授業が行われる場合には、サポーター教員を配置し充実した教育を行うべきと思うがどうか。

② 小規模小学校同士の交流学習をどのように進めているか。

松尾教育長

① サポーター配置は、小学校一年生三十人超学級、小学校二年生三十五人超学級、複式学級十四人以上の場合に配置。数名のところでは制度の適用が出来ない場合に町単独でサポーターを配置することは財政上困難であり、管理職がサポーターし少人数教育の充実を図っている。

② 荒川・轟木・大浦小学校の三校で平成十七年度か

町の考えを聞く

ら合同宿泊学習を実施しており、学校間の交流と集団生活を体験する機会を設けている。今後とも

各校の特色を生かしながら、体験学習を中心とした学習交流会を積極的に取り入れていきたい。

地域活性化 「スタンプ」券で公共料金の支払いを 条件整備が必要で今後の検討課題

質問 町内に大型チェーン店が開業するようである。更に空店舗が多くなること
が危惧される。

商店街の活性化の一つとして、地域通貨を活用した新たなコミュニティづくりなども考えられるが、町内の商店でつくる「スタンプ会」のスタンプ券を活用して、公共料金を支払った
りすることはできないか。

沼崎町長

買物スタンプは、顧客の確保と販売促進を図る目的で行われている

と考えている。
地方公共団体の歳入の収入は、現金による収納が原則となっており、スタンプ券による公共料金の直接納付は、現行制度では不可能である。

これを可能にするためには、スタンプ券の発行元である協同組合でスタンプ券を換金できる条件整備が必要となる。また、新たな町の収納事務の検討も必要であり、今後の検討課題と考えている。